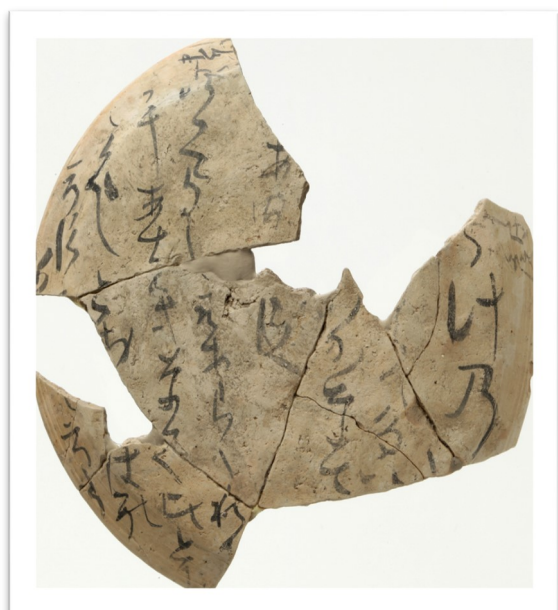


時の彼方から蘇るモノ、そして人

2017.9.27 (水) 13:30-15:30

富山大学人文学部1階大会議室

第3回



「出土仮名文字資料の研究」

歴史文化講座(日本史) 教授

鈴木景二

【要旨】 平仮名は、日本の文化を代表するものである。しかし、その成立過程や広がりなどを知る手がかりは僅かしか残されていない。ところが近年、富山県赤田Ⅰ遺跡をはじめとして、各地の遺跡から成立期に近い仮名を記した土器などの発見が相次ぎ、その様相が明らかになりつつある。今回の報告では、この赤田Ⅰ遺跡の資料だけではなく、さらに最新の注目すべき資料の概要と問題点を提示する。

「東洋史学事始

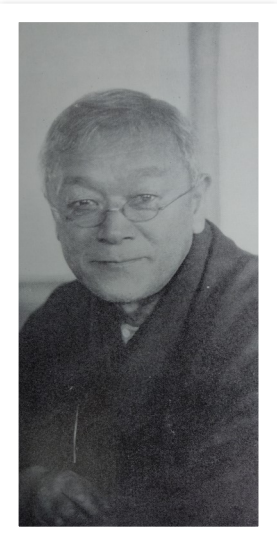
—内藤湖南と桑原隲蔵—

歴史文化講座(東洋史) 教授

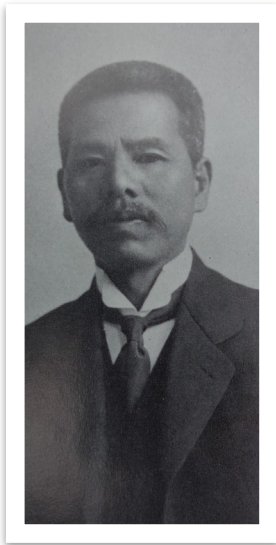
徳永洋介

【要旨】 東洋史学の創始者、内藤湖南と桑原隲蔵。二人の学問は、方法論上の違いもさることながら、学問の範囲対象をあくまで中国文化の枠組みで理解するか、それとも中国を含む東アジアだけでなく、中央アジアや南アジアをも含めて考えるかという点でもおよそ対照的であった。この報告では二人の碩学が同時代史としての中国と日本をどのように認識していたのかという見地から、それぞれの東洋史学に対する眼差しとその後の東洋史学に与えた影響について、いささか論じてみたい。

藤原良相（良房弟）邸出土の仮名墨書土器



内藤湖南



桑原隲蔵

一般の方の聴講可・事前申込不要・無料

「人文知」コレギウム